

都筑区洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域(想定最大規模※)

鶴見川水系河川：鶴見川、早淵川、大熊川

この洪水ハザードマップは、鶴見川水系等の河川の氾濫が予想される場合や実際に氾濫した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の降雨」による氾濫を前提として予測したものです。



1 : 17,500

500m 0m 500m 1500m

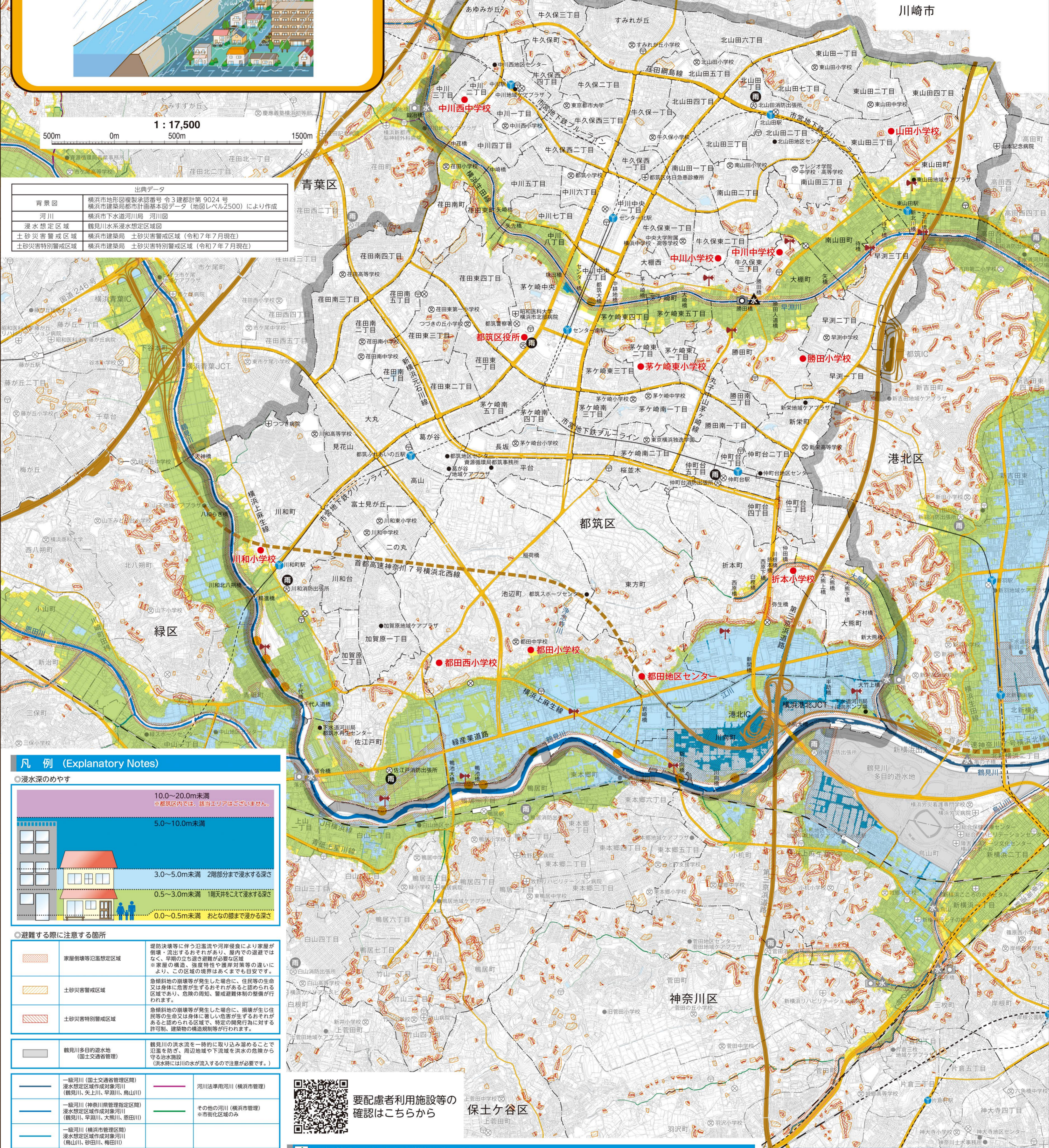
出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3 建都計第 9024 号 横浜市建設局都市計画課 本図データ (地図スケール2500) により作成
河川	横浜市下水道河川局 河川図
浸水想定区域	鶴見川水系浸水想定区域図
土砂災害警戒区域	横浜市建設局 土砂災害警戒区域 (令和7年7月現在)
土砂災害特別警戒区域	横浜市建設局 土砂災害特別警戒区域 (令和7年7月現在)

洪水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの?

こちらの洪水浸水想定区域^{※1}の範囲やその深さは、想定し得る最大規模の降雨(2日間で792ミリ)を前提として、川のながれがあふれた場合や堤防が壊れた場合をシミュレーションにより予測したものです。

【参考】横浜地方気象台では、平成26年10月5日に24時間で約307ミリの降雨を観測しています。^{※2}
なお、この洪水浸水想定区域は、前提となる降雨を超えるような大雨、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していませんので、着色されていない区域でも浸水が発生する場合があります、実際の浸水深と異なる場合があります。

- ※1 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所ホームページ
(https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index070.html)
- ※2 横浜地方気象台ホームページ
(<https://www.jma-net.go.jp/yokohama/>)



凡例 (Explanatory Notes)

◎浸水深のめやす

10.0~20.0m未満	※都筑区内では、該当エリアはございません。
5.0~10.0m未満	
3.0~5.0m未満	2階部分まで浸水する深さ
0.5~3.0m未満	1階天井まで浸水する深さ
0.0~0.5m未満	おとなの膝まで浸かる深さ

◎避難する際に注意する箇所

家屋倒壊等氾濫想定区域	堤防決壊に伴う氾濫や河岸侵食により家屋が倒壊・流出するおそれがあり、屋内での避難ではなく、早期の立ち退き避難が必要な区域。 ※家屋の構造、強度特性や避難対策等の違いにより、この区域の境界はあくまでも目安です。
土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危険が生ずるおそれがあると認められる区域であり、危険の告知、警戒避難体制の整備が行われます。
土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、崩壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危険が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。
鶴見川多目的遊水池 (国土交通省管理)	鶴見川の洪水を一時的に取り込み留めることで氾濫を防ぎ、周辺地域や下流域を洪水の危険から守る治水施設 (洪水時には水が流入するよう注意が必要です。)

◎河川

一級河川 (国土交通省管理区域) 浸水想定区域作成対象河川 (鶴見川、矢上川、早淵川、大熊川)	河川法適用河川 (横浜市管理)
一級河川 (神奈川県管理指定区域) 浸水想定区域作成対象河川 (鶴見川、早淵川、大熊川、恵田川)	その他の河川 (横浜市管理) ※市街化区域のみ
一級河川 (横浜市管理区域) 浸水想定区域作成対象河川 (鶴見川、早淵川、大熊川、恵田川)	

◎その他

都筑区界	高速道路・有料道路
市区界	主要道路
町丁目界	避難場所
JR線・駅	雨量観測所
私鉄線・駅	水位観測所
市営地下鉄線・駅	河川監視カメラ

◎防災用スピーカー

「台風やゲリラ豪雨等の大雨により浸水の危険がある場合に、避難指示等の避難に関する情報をサイレンや音で伝達するもので、早淵川流域 (6基) と鶴見川流域 (7基) に13基が設置されています。防災用スピーカーは、避難場所での避難のほか、インターネット回線を使用して区役所 (区災害対策本部) から避難指示により伝達することがあります。」

◎観水拠点

この地図に掲載の「観水拠点」は、河川を公認して整備 (早淵川) 又は河川敷に階段等の設置により立ち入ることができるところ (鶴見川) を指し、身近に水に親しめる一方、急な増水などにより危険となる場合があります。

要配慮者利用施設等の確認はこちらから

保土ヶ谷区

風水害時における避難場所について

◇災害時には、下記の避難場所以外に、地区センター、地域ケアプラザ等の公共施設、自治会町内会館を避難場所として開設する場合がありますので、避難の際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(テータ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。

◇2か所以上の避難場所へ避難できるよう、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。

◇すでに浸水が始まっている場合などには無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところへ避難してください。

なお、都筑区では避難場所として、下記に示した施設を優先して開設します。

条件等	避難場所
レベル4 土砂災害警戒警報が発令された場合の避難場所	勝田小学校、都田小学校、都筑区役所
洪水時の避難場所	折本小学校、都田小学校、都田西小学校、川和小学校、山田小学校、中川中学校、中川小学校、中川西中学校、茅ヶ崎東小学校、勝田小学校、都筑区役所、都田地区センター

横浜市水防災情報

横浜市内外の河川の水位やカメラ画像をリアルタイムで公開しています。スマートフォンでは現在地機能で近くの河川情報を取得できます。

想定条件

鶴見川水系：2日間で792mmの降雨